

離任される先生方 のメッセージ

令和4年3月25日

注. 高橋敏夫先生は定年退職となりますが、引き続き再任用教諭としてご勤務いただきますので、今回メッセージは掲載していません。

皆さんおはようございます。

3学期終業式に当たり、少し話をします。

先日の3月10日(木)ノルウェーから帰国した滝沢育矢君に、校長室で卒業証書を授与しました。その際、滝沢君から、世界ジュニア選手権の報告があり、目標の30位以内であった、29位に入ることができましたが、納得できる走りではなく、今後さらに力を付けていきたいと報告いただきました。

私から彼に、あなたは我が校の誇りです。これから大学へ進学し、環境も大きく変わるが、高い目標を持って、一步一步努力を続けてほしい。そして世界を目指してほしい。そのためには、人間性を磨くことが大切です。人間性を磨くためには、様々なものを謙虚に学ぶ姿勢を持つことです。と話しました。彼は大きくなずいてくれました。

先日開催された北京冬季五輪に出場した、本校卒の宮沢大志き選手と児玉美希選手の激励壮行会が、1月12日段十ろうで開催され、私も参加しました。そこで何よりも感じたことは、この2人の素晴らしい人間性でした。優しさ、素直さ、謙虚さを2人の言動や所作から感じられました。児玉選手の高校時代の担任であった、数学科の中島雄先生も、当時の児玉美希さんの人間性を褒めちぎっていました。

北京オリンピックは、2人の納得できる結果ではなかったと思いますが、2人の健闘を心から讃えたいと思います。また、宮沢選手の現役引退が、本日の日報で掲載されていましたが、宮沢選手の今までの努力に、心から敬意を表したいと思います。

私から最後、この終業式で皆さんに話したいことは、滝沢君と同じです。高い目標を持ち、一步一步着実に努力すること。そして、謙虚に学ぶ姿勢を持ち続けること。このことをお願いし、私の話を終わります。

この2年間、十日町高校に勤務させていただき、大変幸せでした。地域の人達にもたくさんかわいがっていただき、大変思い出深い2年間を過ごすことができました。

この度、40年ぶりに母校の佐渡高校に戻ることになりました。

母校に恩返しする思いで、私の全力を傾注していきたいと思っています。

十日町高校のますますの発展と皆様の活躍を、遠い海の彼方から願っています。

離任の言葉

国語科 小林 千登勢

4月から津南中等教育学校に勤務することになりました。十日町高校で8年間お世話になりました。ありがとうございました。

8年前の新任式の折、ステージ上から全校生徒の皆さんを目にして、あまりの生徒の多さに、この大勢の中で、何か役に立てることが私にあるのかと、少々不安になったのを覚えています。当時は3年生が8組まであり、私は3年8組理系クラスの副任になりました。1年目の秋に3年生で八海山に登ったのが、（ロープウェイの下を上がって下っただけですが）今でも心に残っています。

勉強に部活動に意欲的な生徒が多く、生徒の皆さんのおかげで少しずつ十日町高校での仕事にも慣れました。日々の授業の中でのやりとりが何より楽しい思い出です。授業後に熱心に質問に来てくれる人もいて、励みになりました。

今年度は2年生と3年生の授業を担当しました。生徒の皆さんに伝えたいことは、今年度の最後の授業で話しました。希望の進路に向けて、一步一步進んでいってください。

ありがとうございました。

「映画『山猫』（ビスコンティ監督）より 離任の言葉」 石田信康（国語科）



人間は、いつか必ず、自分が生きているこの時代が終焉に向かっていることを切実に感じなければならない時を迎える。年を重ねるということは、そういうことだ。去りゆく者は、新しくやって来る者たちの姿をまぶしく見つめ、時代の変化を、目の前にする。

映画『山猫』の老貴族は、自分たち貴族の時代が終わろうとしていること、そして新興ブルジョワの台頭の時代が来ている現実をどうに理解している。老貴族は語る、「私は不幸にも新旧二つの時代の間生まれ、生きている。」と。

2年余に及ぶ新型virusの混乱は、この世界の仕組みやあり方を大きく一変させた。学校では、一人1台のタブレット活用や、ネット配信を介した教育活動が加速度的に当たり前の現実となった。新しい時代のツールをしなやかに、軽々と使いこなしていく20代、30代の若く快活な先生たち、そして高校生諸君を見ていると、老教師のわたしはつぶやくしかない、「私もまた、あの山猫のサリーナ公爵が19世紀半ばのイタリア・シチリア島で呟いたごとく、新旧二つの時代の間生きている。」と。

サリーナ公爵が期待を寄せる甥のタンクレーディは、新興ブルジョワ・セダーラ市長の美しい娘・アンジェリカに恋をする。「若さ」とは、すごいものだ。若い二人は、貴族と新興ブルジョワという身分の差を楽々と飛び越え、愛し合おうとする。

アンジェリカが、貴族の大舞踏会に現れる。新興階級の娘である彼女を見た老婦人貴族は、思わず「美しい。」という言葉が漏らす。シチリア貴族たちの侮蔑と、羨望とが入り交じる視線を一身に浴びたアンジェリカの表情が、いい。恥じらいや屈辱、緊張に耐えきれず俯くのは一瞬、彼女は毅然として視線を挙げ、衆目の好奇のまなざしを力強く受け止め返す。「若さ」とは、ただそれだけで、ためらうことのない自信と強さ、美しさなのかもしれない。



さて、老貴族は語る。「変わらないでいるためには、変わり続けなくてはならない。」

十日町高校での5年間に別れを告げる時が来た。新年度も、変わらないでいたい、と本心から思ってきた。しかし今は、サリーナ公爵の言葉をかみしめている。変化を畏れず、次の職場で変わり続けるとはどう行動することか、考え続けて仕事に取り組みたい。

生徒の諸君は、どうだろうか。2年生は高校時代の総仕上げ、1年生は先輩となり、3年生は進学・就職先、それぞれの次の目的地へたどり着くまでの日々が始まっている。そこに何が待っているのか、不安や期待があるのだろう。しかし、どうか変わることを畏れず、挑戦し続けてほしいと切に願う。君たちのことは、十日町高校の一人のファンとしていつまでも応援しているし、いつかどこかで再会しようではないか。お元気で。

離任の言葉

国語科 今井正樹

昨年の4月に神奈川県から移住し、十日町高校で教員の仕事をさせていただきました。最初は期待よりも不安の方が大きかったのですが、まっすぐで何事にも一生懸命に取り組む生徒や優しい先生方に支えられ、新潟県での1年目を終えることができました。そして、人のつながりや食文化がある十日町を離れることにさびしさを感じております。

今後どこかで会う機会がありましたら、よろしく申し上げます。
1年間ありがとうございました。

離任の挨拶

地歴公民科 中山英一

4年もの間、十日町高等学校では大変お世話になりました。今振り返れば、「あっ」という間の4年間でした。十高のために大きな貢献はできなかったとは思いますが、個人的には今春、久しぶりの卒業生を送り出せたことが最大の喜びです。

さて3月25日に向けての「離任の挨拶」文を連ねているわけですが、教科の専門性を活かして、文章を展開していきたいと思えます。本日3月25日は、室町時代の僧で、**浄土真宗**中興の祖と仰がれる**蓮如**(1415～1499)が85歳で往生した日です。人生50年といわれた時代にしては、かなりの長寿ですね。日本史でもお馴染みの人物なので、「日本史B」選択者はよく勉強しておいてください。なお、お気づきだとは思いますが、重要用語はゴシック体の太字にしています。

蓮如は、父の召使いを母としていましたが、その母は彼が6歳の時、我が子の絵姿を抱いて出奔してしまいます。その後は継母のもとで育てられ、貧窮を極めた生活を余儀なくされます。苦難の日々の中で、若き蓮如は宗祖**親鸞**(1173～1262)、**覚如**(1270～1351)、**存覚**(1290～1373)などの教学を学び、著書を破れるまで読み込み、遂にはその中に自らの救いを得られるに至りました。蓮如が浄土真宗の総本山の**法主**となったのは、43歳の時ですが、その間に彼は好んで歌も詠んでいます。彼の詠んだ歌をいくつか紹介します。

「罪深き 身と生まれぬるこそ 嬉しけれ さてこそ頼め 弥陀の誓ひを」

「十三年を 送る月日は いつの間に 今日めぐりあふ 身ぞあはれなる」

前者は信仰の歌、後者は継母への供養の歌であると解釈されています。継母想いなのですね。

また蓮如の言行録『蓮如上人御一代記聞書』は、現在でも参考になることが多いです。その中からいくつかを紹介します。「幼少なる者には、まず物を読め」とあり、これは幼少年期には、何でもいから読めという読書法です。皆さんは、幼年期から多くの書物を読んでこられましたか。今現在、読んでいる本はありますか。学業や部活動で多忙かも知れませんが、何でもいいので是非一冊手にとって読んでみてください。次に「またその後はいかに読むとも復せずば詮あるべからざる由、仰せられ候」とあります。諺の「読書百遍義自ら見る」と同義ですが、どのように読むにしろ、繰り返し読まないでは無駄であるということです。皆さんにとっては、**教科書**や**学習参考書**がこれに当たりそうですね。破れるまで読み込むことができれば、蓮如レベルです。

また、「心得たと思ふは心得ぬなり、心得ぬと思ふは心得たるなり」は逆説的な言い方ですが、物事を心得ることに果てはない、それに気づいてこそ向上も進歩もあると戒めています。奥が深いお言葉ですね。皆さんにとっては、弛むことのない**旺盛な探究心**に繋がりそうです。

彼の『**御文**(御文章)』は遠隔地の人々に真宗を分かり易く説いたもので、266通もの手紙からなっています。こうした熱心な布教活動により、信者は北陸・近畿を中心に全国に広がりました。やがて教化・組織化された信者(門徒)が、**一向一揆**を起こすことになり、一国を支配する勢いになります。クラス・学年・学校全体が**1つの目標に向かって決起して行動する**と、凄いいことになりそうですね。しかし争いを嫌った蓮如は、北陸を去って大坂に**石山本願寺**を開きます。そして、再び**山科本願寺**に戻って1499年のこの日、没したわけですね。

賢明な皆さんであれば、私がこの文章を通じて何を伝えたいかお分かりいただけますよね。キーワードは、「**試練**」「**読書**」「**教育**」といったところでしょうか。皆さんのご活躍を祈念しています。

私はこの度、60歳の定年退職を迎え、4月からは再任用で津南中等教育学校に勤務することになりました。十日町高校の生徒の皆さんとは僅か1年間という短い間の交流でお別れすることになり、誠に残念です。生徒の皆さんには、いろいろとお世話になり、授業に協力していただき、ありがとうございました。

私は、1962年に松之山町に生まれ、安塚高校松之山分校（現在は十日町高校の分校）を卒業し、東京の私立大学に進み、1985年に新潟県高校社会科教員として採用され、県内7校に勤務した後、昨年4月に十日町高校に着任しました。十日町高校には1993年から5年間勤務したことがあり、今回は2度目でした。私の故郷といえる地域で、若かりし頃の思い出深い十日町高校で、教員生活37年間の区切りを迎えることができ、本当に良かったと思います。授業では生徒諸君の反応が良く、楽しい授業をさせてもらいました。生徒の皆さんは、雪国妻有地方ならではの純粹さと、素直さと、忍耐強さを兼ね備え、その点は昔と変わらない良い点だと思います。

さて、私が高校の社会科の教員になった主な理由として、一つ目に「高校生の時、様々な行事が盛りだくさんでとても楽しかった」という思い出がありました。二つ目に「平和で豊かな社会を築くためにはどうしたらよいのか」という問いがありました。この二つのことは、定年を迎えた今、再び焦点化してきたように感じています。次の学校に行っても、「平和」「豊かさ」「楽しさ」の三つを主なテーマとして社会科の授業を行っていきたいと考えています。

ところで、私たちが生きる現代社会は、猛烈な勢いで変化しつづけています。この変化に対して、ポジティブに対応するのか、それともネガティブに対応するのかで、楽しい人生となるのかそうでないのかが、大いに関係してくるでしょう。生徒の皆さんは、失うものは何もなく、得る一方の若い年代ですから、もちろん変化に対してポジティブに対応し、日本と世界をよりよいものに創りあげていく市民の一人という意識を持って、学び続けていってほしいと思います。社会哲学者エリック・ホッファーは、次のように言っています。

『激しい変化の時代に未来を継ぐのは、学び続ける者である。学びを終えた者は往々にして、もはや存在しない世界で生きる術を身につけているにすぎない』と。十高生の皆さん、頑張ってください。

それでは、本当にお世話になりありがとうございました。お元気で、さようなら。

私の好きなスポーツ選手はたくさんいますが、二大スーパースターは陸上のカールルイスと大相撲の横綱千代の富士です。

千代の富士が現役の頃、同じく大ファンだった父親からよく言われていたことがあります。それは、千代の富士は、小さな目標を作ってそれを達成するということを何回も繰り返した結果今があるのだ、ということです。そのときに「だからお前もそのように生きろ」と言われたかどうかは覚えていませんが、結果としては私もそのようにありたいと思っています。本校に勤務していた間の私は、千代の富士の努力に比べれば、ただ風の前の塵に同じですが、小さな目標を順番にクリアすることの繰り返しでした。それは数学の指導、他の校務、趣味の卓球の練習についても同じです。その成果については、生徒さんや周りの方々の評価に委ねるしかありません。

十日町高校の生徒が身につけるべき能力は、一つは努力するという能力、一つは目先の結果にとらわれることなく中長期的に取り組む態度です。そのようなものが身につけば鬼に金棒でしょう。

私が次に勤める学校は三条高校という高校です。一回も行ったこともなく、知り合いもほとんどいない、未知の学校です。私にどんなことが望まれているのかはわかりませんが、千代の富士のように一步一步努力していくしかありません。数学が私の仕事なので、数学で切り開くのみです。

生徒の皆さんも自分の夢に向かって小さな一步を積み重ねていってください。今は特に夢がないという人は、日々の学習をしっかりとやってください。それだけで十分進路探究になります。

十日町高校には、9年間という大変長い間お世話になりました。ありがとうございました。さようなら。

離任の挨拶

桜井勇

十日町高校に勤めて7年が経つ。この間、体育の授業をはじめ、担任としてクラスの生徒に接することや、陸上競技を志す部員たちとふれ合う中で、自分自身が成長させてもらった。これは52歳の授業者としては失格なのかもしれないが、教員になった当初、こんな50代になるとは想像もしなかった。

溺れる者は藁をもつかむ、と言うが、私の場合、授業にせよ部活指導にせよ、藁をひっきりなしにつかんでいるだけであった。しかし藁だと思っても、とにかく手を伸ばしてつかんでバタバタ動いているところに、不思議なことに運よく、浮き袋が現れるのだった。そうやって毎日溺れているうちにいつの間にか体力がついて、何とか立ち泳ぎくらいができるようになった7年間だったと思う。

皆さんが生き生きと体を動かせるように、ない知恵を振り絞って授業案を考えるとき、大勢の部員を目の前に途方に暮れながら、十高の陸上部がどうしたら強くなるかを模索するとき、不思議と力が湧いてきた。心のエネルギーは使うほどに溜まっていくというのは本当である。省エネで楽ちんだからと、無表情無反応、相手に興味を示さないで生きると、自分の中に眠っている力は開発されずに逆に減っていくようである。十高を去るにあたり、このことを皆さんには特に伝えたい。

だから、体育当番の呼びかけには気持ちよく呼応し、十高体操は毎回大きな声でやってほしいものである。

離任に寄せて

室川 祐子

私は十日町高校に3年間お世話になりました。短い間ですが、生徒たちと共に学びながら楽しく充実した日々を送ることができました。

皆さんはアップルの創設者であるスティーブ・ジョブズの”Stay hungry, stay foolish”という言葉聞いたことがあるでしょうか。「貪欲であれ、愚かであれ」と訳されることが多いこの言葉は、スタンフォード大学の卒業式でのスピーチの最後を飾り、信念を貫き通すことの重要性を伝えるメッセージとして有名ですが、スピーチの詳しい内容はあまり知られていないかもしれません。彼の生い立ちから始まる three stories で構成されています。

その最初の story の話をしたいと思います。「点と点をつなげる」話です。ジョブズは母親が未婚の大学生だったため養子に出されます。養父母は私立大学に行かせてくれますが、やりたいこともなく学費も高かったため半年で中退してしまいます。ところが彼はやめた後もキャンパスに残り心の向くまま興味のある授業にもぐりで出続けました。その時カリグラフィー（西洋書道）の世界に魅了されます。その知識が「役に立った」のは10年後のことです。コンピューターに様々なフォントを組み込むという誰も考えもしなかった（そして誰もが不必要だと思った）画期的な発想に結びつきます。

私たちは今やっている勉強は何の役にも立たないんじゃないか、英語なんてやったって意味ないんじゃないか、などと思ってしまいがちです。しかし、過去を振り返るとあの時の点が今のこの点に結びついていると実感することはたくさんあるのではないのでしょうか。

十日町高校の生徒の皆さんには、今の努力、経験、失敗、出会いなど全てのことが、将来の点に結びつくと信じて、一瞬一瞬を大切に人生を歩んで欲しいと心から思います。

新任校へ行っても十高生の皆さんのご活躍を応援しています。皆さん、お元気で！！

（ジョブズのスピーチは、実際の映像を日本語字幕付きの動画で見ることができます。

15分くらいのもので是非見てください。淡々と語られますが本当に感動的です。）

離任の言葉

英語科 小幡 有美子

皆さんは今、どんな気分ですか。新学期を迎えるにあたって、緊張している人もいるでしょうか。私は不安と緊張でここ数日食欲がありません。この春、勤務校も住まいも家庭環境も変わり、私の人生の中でもベスト5に入る変化の時を迎えています。

私の人生で一番しんどかった年は高校3年生の一年間です。秋からは朝ご飯がほとんど食べられず、なんとか食事をして、すぐに戻ってしまう日々を送っていました。第一志望の大学に落ちたらどうしようと不安でしかたがなかったのです。とにかくできない問題をなくそうと、目にした問題は何が何でもわかるようにすることで不安と付き合いながら過ごしました。

今でも思い出します。第一志望の大学の受験を終えて、帰りの新幹線を待つ間に食べた駅弁のおいしさを。受験の為に2泊3日で上京し、その間ほとんど食事がのどを通らなかった私ですが、そのお弁当は箸も止まらず一気に平らげました。本当においしかったです。

高校3年を乗り越えた私は、大学ではやりたいことに何でも挑戦して、毎日楽しく笑ってかけがえのない4年間を過ごしました。(大学では受験時期よりも勉強しましたが、好きなことを勉強していたので、精神的な辛さはなかったです。)

そしてこの春も食欲をなくしています。この年になっても相変わらず環境の変化や大きな不安や緊張があると食欲がなくなる私ですが、なんとかこれまで社会人としてやってきています。

私の受験時期の例は極端ですし、食事がとれなくなるほど精神的に追い込む必要はないですが、高校3年生は自分自身の人生を歩み出すための大事な1年です。ここで大いに悩み、考え、勉強してください。しんどい思いをした分だけ、きっと晴れやかな日々がやってきます。

2年4組の担任をしている私は、1年後、辛いであろう1年を乗り越えた皆さんの笑顔をみることを楽しみにしていたのですが、残念ながら十日町高校の教員として見届けることはできません。少し離れた場所からになりますが、それぞれが望む進路に向かってがんばり続けると心から信じ、応援し続けます。

十日町高校での5年間、本当に楽しかったです。食欲がなくなったのは、初めての雪道&峠越えの通勤が怖かった時期だけでした。ありがとうございました。

『こんな時代だからこそ』

理科 渡辺 義彦

強い者には不思議と味方がつくもの
何をもって強者というのか、ここで議論するつもりはない

ただ、敢えて抽象的な言い方をすれば
媚びず
群れず
権力持つ者に簡単に跪(ひざまず)かず

正しいことを正しいと言える
弱い者の味方になって生きて欲しい

常に弱いものの味方になって…

これからの時代を担う、母校の後輩たちへ

私からの『願い』である

離任のあいさつ

高橋季代(図書館)

4年間、図書館の仕事をさせていただきました。

十日町高校の生徒たちは優しく素直な生徒ばかりです。そんな生徒たちと過ごす毎日は幸せな時間でした。日々、十日町高校のみなさんがいろんなところで頑張り活躍する姿を見て、ひとり感動していました。

図書館の仕事は、毎日が試行錯誤の繰り返しでした。自分なりに図書館作りをしていたものの、みなさんにとって役に立つ図書館になれたか？と考えると反省すべきことばかりです。それでも、いつも図書館を利用してくれたみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

最後に私からのおすすめ本

『「ありがとう」がエンドレス』 田口ランディ著 (晶文社)

図書館のコーナー展示「先生方おすすめ本」の片隅に置いてあります。

私が共感する言葉がつまっています。是非「はじめに」から読んでください。

では、『ちゃんとごはんたべて、しあわせにね。』(本文より)

これからもみなさんの更なる成長と活躍を期待しています。